

# Sustainability Transition における倫理

担当者：太田和彦

研究室：Q6012

## 1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

本プロジェクトの目的は、社会の持続可能性を向上させる「移行・転換」(sustainability transition)の過程を理解し、それを促進することです。主に超学際的な研究プロジェクトの事例を分析し、それを通じて実際の社会問題・環境問題への介入を試みます。

今日の世界は人口増加、経済成長、エネルギー消費の増大など、いわゆる「大加速」による急速な変化に直面しています。これらの変化は、人間の生活様式に大きな影響を及ぼすだけでなく、気候変動や天然資源の枯渇などの生態学的問題をもたらしています。「人新世」と呼ばれる時代のなかで、未来をより持続可能で再生可能なものにするためには、どのような介入が可能でしょうか？

本プロジェクトでは、特に「食」に焦点を当てています。「食」は私たちの生存に不可欠な要素であるとともに、さまざまな社会的・技術・生態学的問題が絡み合う領域です。様々な立場の利害関係者が「厄介な問題」(wicked problems)にどのように取り組んでいるかを理解することを通して、事例をもとに様々な介入の可能性を具体的に明らかにし、Sustainability Transition における倫理のあり方と、その限界を検討します。

太田が現在関わっている主な研究プロジェクトは以下の通りで、これらのテーマに関心がある学生を特に歓迎します。

### ◆フードスケープと風土論

フードシステムと地域社会の結びつきを探求し、公衆衛生、社会的公平性、持続可能性についての理解を深めます。また、和辻哲郎の風土論を枠組みとして、フードツーリズムや自然体験学習のあり方の検討も行っています。

### ◆都市食料政策ミラノ協定と食農倫理学

国際的な協定に基づく都市の取り組みを比較分析します。また、気候変動や急速な都市化が進むアジア太平洋地域で、どのように持続可能で再生可能なフードシステムの、公正かつ適切な移行を進めていくか、その倫理的問題を検討しています。

### ◆シリアスゲーム

社会問題や環境問題をテーマにしたゲーム（シリアスゲーム）の効果と限界、制作過程における社会構想と相互学習の分析を行います。

**現状認識**

文明的視座からの考察

課題

**人新世を生きるには？**  
Anthropocene

対処策

**持続可能性を向上させる  
移行・転換**  
Sustainability Transition

1940年代以降、人口、食料生産、エネルギー消費、経済活動の機会が急激に増大しました。一方で、人間の活動は、気候変動などの地質学的なレベルの変化を地球に刻み込んでいます。

この移行・転換を、文明的視座から相対化してみよう。社会の持続可能性を向上させるために、この移行・転換にどのような介入ができるでしょうか？

その介入の現場で生じる「厄介な問題」にどのように取り組めばよいのでしょうか？

**基本方針**

超学際研究、厄介な問題

課題

**「厄介な問題」に取り組むには？**  
Wicked Problem

対処策

**分野を横断する  
連携・協働**  
Transdisciplinary collaboration

状況の変化が早い、全員が満足する解決策がない、解決策が別の問題を生む…そんな「厄介な問題」には、複数の分野の人々や組織が連携して取り組む必要があります。

縦割りをこえて、行政、企業、研究機関、非営利団体の協働をどのように進めればよいでしょうか？

現状認識の共通点を探り、複数あるゴールに優先順位をつけ、試行錯誤を否定しないような場をどのように作ればよいでしょうか？

**実践 1** フードスケープ、風土論

課題 **社会的分業をこえて、メンバーの現状認識をある程度揃えるには？**

対処策 **他の人と一緒に資料を検討したり、知識や見解の棚卸しをする。**

**データセッション**  
写真や文献、調査結果を一緒に見て、その資料から言えることと言えないことを確認します。自分が使っている知識や納得の仕方を確認できます。

---

**実践 2** 「ミラノ協定」、食農倫理学

課題 **望ましい将来像やゴールがいくつもあるときには？**

対処策 **項目を分けて、譲れるところと譲れないところを検討する**

**ルーブリック**  
評価項目と尺度を組み合わせた表。成績をつけるためだけでなく、いくつかの指標を折衷する判断装置にもなります。

---

**実践 3** シリアスゲーム

課題 **分野を横断した連携の経験を積むには？**

対処策 **失敗が許される、ゲームや短期間の開発イベントに参加する。**

**シリアスボードゲームシヤム**  
即興でチームを組み、「厄介な問題」をえて準備し、ゲームとして表現・試遊するイベント。2日間ほどのスプリントです。

南山大・太田研究室のグランドデザイン(2021-2025):「Sustainability Transitionのための倫理」

南山大学 総合数理学部・総合政策学科 太田和彦 研究室

2023年度の卒業研究のおおまかなテーマと題目(仮)は、以下のとおりです:

- 社会・環境問題と政策分析:
- ・ 「社会的実践理論を参照した環境政策のギャップの解消:経路依存性のアンロックに注目して」
  - ・ 「日本のフードバンク活動に求められる行政の支援:愛知県における実態調査と米国の実践との比較から」
  - ・ 「日本における都市農業の展開と挑戦:社会的交流、持続可能性、地域活性化の視点から」
- 廃棄物と持続可能性:
- ・ 「日本の家庭からの食品廃棄物を減らすには:加工食品に可能な貢献に関する分析」
  - ・ 「食品廃棄物から生地へ:持続可能なテキスタイルデザインの開発における食品廃棄物の活用可能性の探求」
- ファッションとマーケティング批判:
- ・ 「ファストファッションに対するグリーンウォッシュ批判の分析」
- ポップカルチャーと社会文化:
- ・ 「現代日本のおまけ文化についての考察:2000年代初頭の食玩ブームとオタク文化の変遷から」
- ゲームデザインと倫理:
- ・ 「ゲームデザインとプレイヤーの選択:トロッコ問題と社会的差別に関する倫理的ジレンマの分析」
- 社会哲学:
- ・ 「マイケル・サンデルから見るこれからの社会に適した思想」

2. プロジェクト研究の進め方

3年生は基礎文献の講読と理解に重点を置きます。自身の設定した研究テーマに関連した文献に100本ほど目を通し、自分の関心を学術的な文脈の支えを使って考える基礎を培うことが目標です。目次マトリクスの作成、ABD読書法、ビブリオバトル、基礎文献をもとにした議論などを行います。

毎回のゼミへの参加とともに、「研究企画書」（8月）、「研究計画書」（1月）の提出が要件となります。

4年生は個人研究が中心となります。自身の書いた研究計画書に基づいて、フィールドワークや文献調査を実施し、ゼミで進捗報告を行います。また、年間を通して、ゼミ生同士で草稿を読みあう相互査読を行います。これにより、研究成果のまとめ方やプレゼンテーションのスキルとともに、適切なサポートを要請する仕方を身に着けることが目標です。

毎回のゼミへの参加に加えて「卒業論文・草稿」（8月）、「卒業論文」（1月）の提出が要件となります。また、4月と12月に研究報告会を予定しています。

### 3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

Q2に開講される「環境思想論」を履修してください。また、3年次Q2に開講される総合演習B（太田）を履修してください（履修が難しい場合は必ず相談して下さい）。環境政策コースの履修が望ましいですが、どのコース履修者も歓迎します。

### 4. プロジェクト研究開始までの準備

下記の2つの資料を一読しておいて下さい。

- ポール・B・トンプソン、太田和彦訳(2015=2021)『食農倫理学の長い旅—〈食べる〉のどこに倫理はあるのか』勁草書房  
訳者あとがきに、「食」に焦点をあて、持続可能な、そして持続させるに足る社会のあり方を構想するうえでの基本的前提がまとまっています。
- 読書猿(2020)『独学大全』ダイヤモンド社  
プロジェクト研究を進めるうえで役立つ様々な手法が載っています。「転読」「掬読」「目次マトリクス」の項目は必読です。

### 5. その他

下記をはじめ、いくつかのオンラインサービスやツールを使用します。

- ・ Slack…質問や情報共有、連絡事項のやり取りに使用します。
- ・ Scrapbox…各ゼミ生は自分のページを作成し、面談ノートとして使用します。

資料を大量に読み込み、まとめる作業があります。また、4年生以降は、お互いの草稿を読みあってコメントをする輪読も行われます。文章を読むことに苦痛を覚える方にはまったくお勧めできないゼミです。

論文や書籍をいろいろな仕方を読み、整理し、それらをふまえて書く技術を身に着けたい方にはお勧めです。

### 6. 選考方法

プロジェクトアワーの参加が必須です。日程は後日発表します。志望理由書（学部指定書式）と面接（関心のあるテーマ、希望する進路などについての聞き取り）で採否を決定します。